

むつ小川原地域水産業経営環境実態調査（概要）

田中 俊輔・長津 秀二（県漁政課）・長谷川幸雄（青森県水産事務所）
中浜 義則（むつ地方水産改良普及所）

は じ め に

本調査は、むつ小川原開発地域における地域開発を促進するため、地域産業等に対するニーズの洗いだしを行い、漁業の経営改善および将来の振興方向を探ることを目的として実施した。

方 法

1、調査期間：昭和62年度

2、調査主体：青森県（水産部）

（註；聞き取り調査およびアンケート調査は主に青森県水産試験場が行った。ここでは前記2調査の概要を述べる。）

3、調査対象地域

：六ヶ所村、三沢市、東通村の各漁業協同組合

(1) 聞き取り調査

調査対象者および方法

本調査は尻労漁協、猿ヶ森漁協、小田野沢漁協、白糠漁協、泊漁協、六ヶ所海水漁協、六ヶ所村漁協、三沢市漁協に所属する正組合員を中心に実施した。調査対象者は第1表に示すように136人である。

結果の概要

当初予定していた対象者より泊漁協では1人、三沢市漁協では9人程多くの回答をえた。各漁協別の回答者数と回収率を第1表に示す。

a 経営体の概要

・（漁業経営体組織）単数回答

8漁業協同組合（以下漁協）の経営体組織は74.8%が「個人経営」である。漁協別に見ると、白糠漁協では100%、泊漁協では100%、三沢市漁協の96.4%であるが、猿ヶ森漁協では25.0%と少なく、六ヶ所村漁協では「その他（共同経営、その他）」が66.7%を占めた。

・（漁業以外に従事しているもの）複数回答

漁業以外に従事しているものは「その他の事業」、「労賃収入」で、この2つを合計すると猿ヶ森漁協、小田野沢漁協、白糠漁協、泊漁協の100%、六ヶ所村海水漁協の11.8%、三沢市漁協の31.3%がそれぞれ「遊漁案内」をあげた。

第1表 聞き取り調査の実施状況

市町村	漁協	組合員数			聞き取り調査			調査協力者* (代表者)	備考
		正人	準人	計人	対象者人	回答者人	(回収率)%		
東通村	尻 労	132	6	138	8	8	(100.0)	業務課大関勝与志	回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	猿ヶ森	54	2	56	8	8	(100.0)	東通村役場水産課 畑中好博	役場職員が配布し、回収に歩いた
	小田野沢	218	29	247	20	20	(100.0)	職員川村隆	漁協職員が回収に歩いた
	白糠	545	107	652	20	18	(90.0)	参事嶋田勝久	回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	(小計)	949	144	1,093	56	54	(96.4)		
六ヶ所村	泊	708	172	880	20	21	(100.0)	総務課辻浦元雄	調査用紙を郵送し、回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	六ヶ所村海水	380	83	463	20	20	(100.0)	購買指導係中村実	調査用紙を郵送し、回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	六ヶ所村	170	19	189	20	18	(90.0)	総務立花寿満	回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	(小計)	1,258	274	1,532	60	59	(98.3)		
三沢市	三沢市	595	186	781	20	29	(100.0)	指導海岸局係 川村義徳	29名分は一括して同時に調査を行い、他は回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	(小計)	595	186	781	20	29	(100.0)		
総計		2,802	604	3,406	136	142	(100.0)		

* むつ地方水産業改良普及所、青森県水産事務所普及課の協力も得た

b 漁業経営状況

・（漁業の種類）複数回答

この一年間に営んだ漁業の種類は猿ヶ森漁協を除く7漁協では「刺網」、「小型イカ釣り」、「その他の釣り」が多く、この3漁業を合計すると61.3%になり、いわゆる獲る漁業が主体である。前記以外の漁業種類としては尻労漁協の「延縄」が22.2%、猿ヶ森漁協の「その他の漁業」が33.3%、泊漁協の「採貝、採草業」が28.9%を占めた。

・（漁業収益）単数回答

漁業収益の状況を見ると6ヶ所村漁協では88.2%が「黒字」と回答した。一方、猿ヶ森漁協（50.0%）、小田野沢漁協（52.7%）、白糠漁協（52.9%）、泊漁協（65.0%）の4漁協は50%以上が「赤字」と回答した。

・（水揚げ量が増加したとしたらその理由）複数回答

水揚げ量が前年より増加した理由を「稼動日数を増した」、「漁船、漁具を増強した」、「遠くまで行って操業した」などの漁獲努力の強化と「海況条件がよかった」、「海の模様が良かった」などの自然条件によるものに分けると、白糠漁協では前者が50.1%、後者が49.9%とほぼ等しい。しかし、三沢市漁協では前者の78.9%に対し、後者は15.8%で、漁獲努力の強化によって水揚げ量が増加した方が多い。

・（漁業経費が増加したとしたらその理由）複数回答

「その他の資材の使用量が増えて資材費が増加した」と「漁船、漁具を増やした」を合計すると50.8%になる。漁協別に見て多いのは泊漁協の「漁船、漁具を増やした」が33.2%（回答者の87.5%）、三沢市漁協の30.5%（回答者の58.3%）、白糠漁協では66.6%（回答者の100%）を占めた。

c 設備投資、経営内容の変化

・（漁業経営内容の変化）単数回答

「漁船数」では93.3%、「漁船規模」では94.0%、「従事者」では88.1%、「漁業種類」では93.7%がそれぞれ「変わらない」とし、現状維持が圧倒的に多い。そのなかで三沢市漁協では17.9%が「漁船数を増やした」と回答した。

・（設備投資）単数回答

泊漁協の85.0%、三沢市漁協の85.7%がこの1年間で設備投資を「した」とし、三沢市漁協では「漁船の増加」をあげている。六ヶ所村漁協を除く7漁協では「設備投資をした」回答者のそれぞれ100%（尻労漁協）、66.7%（猿ヶ森漁協）、100%（小田野沢漁協）、100%（白糠漁協）、82.4%（泊漁協）、40.0%（六ヶ所村海水漁協）、66.6%（三沢市漁協）が「漁具の増強」をあげた。

d 借入金、資金繰りの方向

・（借入金）単数回答

三沢市漁協を除く7漁協では借入金が「ほぼ前年度なみ」と「減った」を合計するといずれも50%以上で、猿ヶ森漁協、小田野沢漁協ではそれぞれ100%、六ヶ所海水漁協では88.9%である。

・（資金繰り）単数回答

「資金繰りが楽になった」と「ほぼ同じであった」を合計すると67.2%になる。しかし、

漁協別に見ると尻労漁協では28.6%と他漁協に比べて少ない。

e 現在および今後の漁業経営上の問題

・（漁業経営上で困ったこと）単数回答

漁業経営上で困ったことについて尻労漁協（60.0%）、猿ヶ森漁協（100%）、小田野沢漁協（60.0%）、白糠漁協（66.7%）、泊漁協（95.0%）、六ヶ所村海水漁協（78.9%）、三沢市漁協（80.0%）では半数以上が「ある」と回答した。六ヶ所村漁協では「ある」と回答したのは17.6%と少ない。

経営上の困ったことについて、六ヶ所村漁協の17.6%（「ある」と回答した回答者の66.7%）が「操業条件の悪化」として「漁場競争の激化」をあげた。他の六漁協、尻労漁協では22.5%（「ある」と回答した回答者の66.6%）、以下同じく猿ヶ森漁協では14.3%（33.3%）、小田野沢漁協では44.0%（91.6%）、白糠漁協では19.6%（55.5%）、泊漁協では12.4%（70.0%）、六ヶ所村海水漁協では14.8%（53.3%）、三沢市漁協では9.1%（33.3%）が「漁獲の不振」をあげた。「労務問題」では猿ヶ森漁協では28.5%（「ある」と回答した回答者の66.6%）、六ヶ所村海水漁協では14.8%（42.1%）が「後継者がいない」をあげた。「販売金融条件」では小田野沢漁協を除く7漁協が「魚価安」をあげた。

・（今後の漁業経営の問題）複数回答

今後の漁業経営の方針について、「当分現状維持を続ける」が17.5%を占めた。これは「設備の増強を積極的に図っていききたい」の5.4%、「漁場の拡大、漁業種類を多様化するなどを積極的に進めたい」の9.4%に比べて多い。

各漁協別に見ると、「当分現状維持をつづける」が最も多いのは六ヶ所村漁協の63.3%（回答者の82.3%）で、以下同じく、小田野沢漁協の33.3%（77.8%）、少ないのは尻労漁協の8.3%（33.3%）である。一方、「経費の節減を図る」は尻労漁協で16.7%（回答者の66.7%）、以下同じく、小田野沢漁協9.5%（22.2%）、白糠漁協17.0%（50.0%）、泊漁協12.9%（75.0%）、六ヶ所村海水漁協16.7%（35.3%）、三沢市漁協9.7%（31.8%）である。「鮮度の保持などに努め、商品価値を高める」は尻労漁協で16.7%（回答者の66.7%）、以下同じく猿ヶ森漁協では25.0%（100%）、小田野沢漁協14.3%（33.3%）、白糠漁協20.7%（61.1%）、泊漁協16.4%（95.0%）、以下同じく、猿ヶ森漁協25.0%（100%）、泊漁協15.5%（90.0%）、三沢市漁協8.3%（27.2%）では現在の状況を有利になるように見直していこうとする考えがみられた。

(2) アンケート調査

調査対象および方法

調査は(1)聞き取り調査と同じ8漁協に所属する組合員を対象にして実施した。尻労漁協、猿ヶ森漁協、小田野沢漁協、白糠漁協、三沢市漁協では正組合員の一部、泊漁協、六ヶ所村海水漁協、六ヶ所村漁協では全組合員を対象にして実施した。調査対象者は第2表に示すように1,892人である。

結果の概要

各漁協別の回答者数と回収率を第2表に示す。

第2表 アンケート調査の実施状況

市町村	漁協	組合員数			聞き取り調査			調査協力者* (代表者)	備考
		正人	準人	計人	対象者人	回答者人	(回収率)%		
東通村	尻 労	132	6	138	30	20	(66.7)	業務課大関勝与志	回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	猿ヶ森	54	2	56	30	28	(93.3)	東通村役場水産課 畑中好博	役場職員が配布し、回収に歩いた
	小田野沢	218	29	247	50	49	(98.0)	職員川村隆	漁協職員が回収に歩いた
	白 糠	545	107	652	100	85	(85.0)	参事嶋田勝久	回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	(小計)	949	144	1,093	210	182	(86.7)		
六ヶ所村	泊	708	172	880	880	129	(14.7)	総務課辻浦元雄	調査用紙を郵送し、回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	六ヶ所村海水	380	83	463	463	177	(38.2)	購買指導係中村実	調査用紙を郵送し、回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	六ヶ所村	170	19	189	189	144	(76.2)	総務立花寿満	回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	(小計)	1,258	274	1,532	1,532	450	(29.3)		
三沢市	三沢市	595	186	781	150	141	(94.0)	指導海岸局係 川村義徳	29名分は一括して同時に調査を行い、他は回答者が持参すると同時に漁協職員が回収に歩いた
	(小計)	595	186	781	150	141	(94.0)		
総計		2,802	604	3,406	1,892	773	(40.9)		

* むつ地方水産業改良普及所、青森県水産事務所普及課の協力も得た

a、家族について

・（年齢）単数回答

各漁協の回答者の年齢構成は尻労漁協、白糖漁協、泊漁協、六ヶ所村海水漁協、三沢市漁協では「50-59歳」にモードがある。猿ヶ森漁協では「60-69歳」にモードがあって回答者の75.0%が50歳以上である。一方、小田野沢漁協では「30-39歳」にモードがあって50歳以上は回答者の10.5%と少なく、39歳以下が70.8%である。

・（家族数）単数回答

回答者の21.2%が「5人家族」で最も多く、次いで「6人家族」（18.3%）、「4人家族」（17.7%）の順である。

・（漁業従事者）単数回答

回答者の82.3%が漁業に従事しているのが本人を含めて2人以下である。「1人」は47.7%、「2人」は同じく34.6%である。

b、漁業の実態について

・（漁業日誌）単数回答

回答者の17.3%が漁業日誌をつけている。

8漁協の中では白糖漁協の29.6%、泊漁協の25.4%が多い。小田野沢漁協では全ての回答者が漁業日誌をつけていない。

・（家計簿）単数回答

小田野沢漁協では漁業日誌をつけている回答者はなかったが家計簿は89.8%がつけている。しかし、8漁協の回答者のうち家計簿をつけているのは33.1%で漁業日誌に比べて多い。

・（仕事の状況）単数回答

尻労漁協の60%、白糖漁協では54.9%が専業農家である。猿ヶ森漁協、小田野沢漁協には専業農家が皆無で他の4漁協も少ない。

六ヶ所村海水漁協（73.8%）、六ヶ所漁協（90.5%）、三沢市漁協（70.0%）は「どちらか」というと漁業が従で、漁業以外には「農業」に従事しているが多い。

「漁業が従」の回答者（複数回答）についてみると猿ヶ森漁協では56.6%、六ヶ所村海水漁協では40.7%、六ヶ所村漁協では47.8%、三沢市漁協では71.3%が「農業」に従事している。小田野沢漁協では44.9%が出稼ぎに行っている。尻労漁協では100%が「地元の漁業に雇われている」と回答した。

・（所有船舶）複数回答

漁協別のトン数別所有船舶は尻労漁協の40.9%（回答者の75.0%）が「船外機船」を所有し、同時に36.4%（回答者の66.7%）が「3.0トン～4.9トン」の船を所有している。以下同じく、小田野沢漁協では「1トン未満」の船を49.9%（53.3%）、白糖漁協では「3.0トン～4.9トン」の船を57.8%（78.6%）、泊漁協では「3.0トン～4.9トン」の船を11.4%（23.5%）、「5.0トン～9.9トン」の船を8%（16.5%）、「10トン以上」の船を9.1%（18.8%）、六ヶ所村海水漁協では「船外機船」を31.2%（65.7%）、「10トン以上」の船を3.8%（6.2%）、

三沢市漁協では「1.0トン～2.9トン」の船を36.3% (61.1%) がそれぞれ所有している。大型船の所有が多い漁協は尻労漁協、白糖漁協、泊漁協、三沢市漁協である。

・（年収）単数回答

漁業収入が「50万未満」の多い漁協は猿ヶ森漁協（84.5%）、小田野沢漁協（96.0%）、六ヶ所村海水漁協（45.7%）である。漁業収入が「500万以上」が多い漁協は白糖漁協（32.4%）、泊漁協（17.0%）、三沢市漁協（26.3%）である。

・（漁業種類と主に漁獲する魚種）複数回答

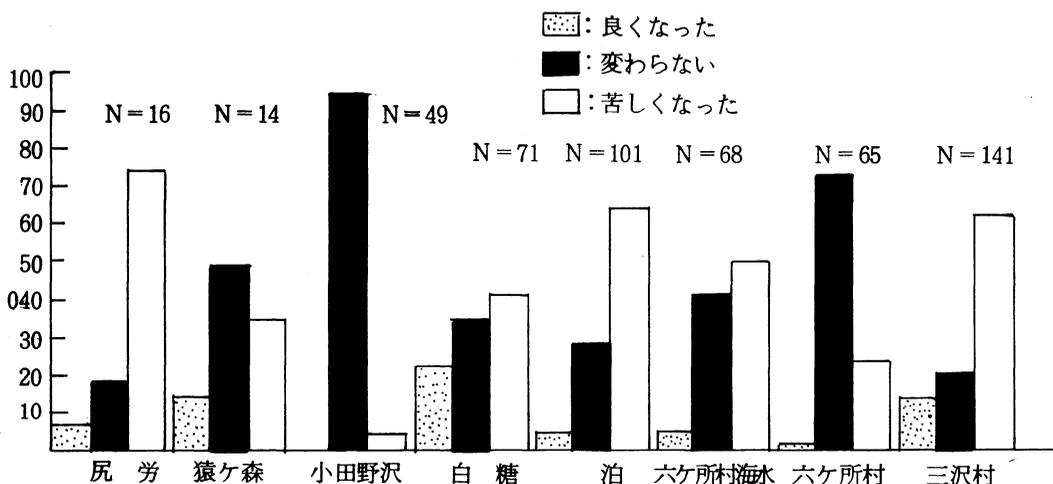
アンケート調査では回答者が 678人（聞き取り調査では 105人）、回答数が 1,108人（同じく 238人）とアンケート調査は回答数が多い。調査回答項目が重複する所があるがアンケート調査も行った。

主に従事している漁業は尻労漁協のうち35.3%（回答者の60.0%）が「大型定置網漁業」、小田野沢漁協では65.9%（95.9%）が「採草漁業」、31.9%（46.9%）が「採貝漁業」、白糖漁協では35.2%（80.5%）が「イカ釣り漁業」、泊漁協では28.8%（54.8%）が「イカ釣り漁業」、14.6%（27.8%）が「採貝漁業」、六ヶ所村海水漁協では45.3%（50.0%）が「刺網漁業」、六ヶ所村漁協では34.8%（65.3%）が「刺網漁業」、三沢市漁協では19.2%（29.1%）が「刺網漁業」に従事している。

また、多く採る魚貝草類として、尻労漁協では「さくらます」、「さけ」、小田野沢漁協では「こんぶ」、「あわび」、白糖漁協、泊漁協では「するめいか」、六ヶ所村海水漁協では「さけ」、六ヶ所村漁協では「さば」、三沢市漁協では「まいわし」をあげた。

・（最近3年間の経営状態）単数回答

最近3年間の経営状態を漁協別に第1図に示す。



第1図 漁協別経営状態について（最近3ケ年間）

8漁協共「経営状態が良くなった」をあげた回答者は少なく、小田野沢漁協では皆無であった。猿ヶ森漁協、小田野沢漁協、六ヶ所村漁協では「経営状態が変わらない」をあげた回答者が多く、それぞれ、50.0%、95.9%、73.9%である。尻労漁協、白糖漁協、泊漁協、六ヶ所村海水漁協、三沢市漁協では「経営状態が苦しくなった」をあげた回答者が多く、それぞれ、75.0%、42.3%、65.3%、51.5%、64.5%である。

c、漁業の将来

・（漁業の将来）単数回答

漁業の将来について小田野沢漁協の63.3%、また、三沢市漁協の65.9%が「良くなる」をあげた。一方、尻労漁協、泊漁協、六ヶ所村海水漁協、六ヶ所村漁協のそれぞれ、58.8%、63.7%、62.9%、73.1%が「漁業の将来は悪くなる」と回答した。

・（今後の漁業経営）複数回答

今後の漁業経営について「当分現状維持を続ける」は小田野沢漁協の95.9%（回答者の95.9%）、以下同じく白糖漁協の50.6%（59.3%）、三沢市漁協の77.3%（79.4%）である。「将来について迷っている」は尻労漁協の29.4%（29.4%）、以下同じく猿ヶ森漁協では18.5%（22.7%）、小田野沢漁協では0%（0%）、白糖漁協では12.6%（14.8%）、泊漁協では25.6%（36.0%）、六ヶ所村海水漁協では17.4%（26.1%）、六ヶ所村漁協では14.6%（19.5%）、三沢市漁協では8.3%（8.5%）である。また、「やめたい」は尻労漁協の0%（回答者の0%）、以下同じく猿ヶ森漁協では14.8%（18.2%）、小田野沢漁協では0%（0%）、白糖漁協では6.3%（7.4%）、泊漁協では19.0%（28.0%）、六ヶ所村海水漁協では30.2%（45.2%）、六ヶ所村漁協では43.0%（57.7%）、三沢市漁協では4.1%（4.3%）である。

猿ヶ森漁協の75.0%（75.0%）、白糖漁協の31.6%（100%）、泊漁協の37.5%（34.3%）、六ヶ所村海水漁協の47.7%（42.3%）、六ヶ所村漁協の34.6%（26.8%）、三沢市漁協の33.3%（33.3%）が「やめたい」と答えたものの「その後のことは考えていない」、そして、「他の漁業に雇われる」よりは「漁業以外の仕事」や「漁業以外の自営をしたい」としている。

・（後継者）単数回答

後継者の「いる」、「いない」を漁協別にみると猿ヶ森漁協の54.2%、三沢市漁協では54.0%が「いる」と回答した。小田野沢漁協、六ヶ所村海水漁協、六ヶ所村漁協では、それぞれ、31.3%、57.1%、58.0%が「いない」と回答した。

・（地元漁業発展に必要なこと）複数回答

地元漁業発展に必要なことを多いものから見ると、「種苗放流などの栽培漁業化を図る」が20.5%、「密漁防止」が19.9%、「地元で試験研究機関を作る」が13.2%、「地元で栽培漁業センターを作る」と「漁礁を設置する」が12.7%である。「種苗放流などの栽培漁業化を図る」のうち25.9%が「さけ、ます対策」、24.6%が「ひらめなどの魚類の放流」、23.9%が「あわびなどの貝類の放流」である。

漁協別にみると尻労漁協の29.3%（回答者の63.2%）が「種苗放流の栽培漁業化」をあげ

た。以下同じく猿ヶ森漁協では31.4%（50.0%）が「種苗放流の栽培漁業化」を、小田野沢漁協では26.8%（100%）が「密漁防止」を、泊漁協では26.1%（70.9%）が「密漁防止」を、六ヶ所村海水漁協では25.6%（50.7%）が「種苗放流などの栽培漁業化を図る」を、六ヶ所村漁協では30.2%（60.5%）が「種苗放流などの栽培漁業化を図る」を、三沢市漁協では24.8%（63.1%）が「密漁防止」をそれぞれ第1位に必要なものとしてあげた。

・（漁業関連施設）複数回答

漁業関連施設の整備、充実が必要なものを多いものからみると、「漁港」が20.7%、「加工施設」が17.4%、「漁船修理施設」が15.2%、「関連道路」が13.3%である。

漁協別にみると尻労漁協の32.1%（回答者の100%）が「漁港」をあげた。以下同じく、猿ヶ森漁協では42.0%（100%）が「漁港」を、小田野沢漁協では33.3%（100%）が「漁港」と「関連道路」を、白糖漁協では27.2%（77.9%）が「製氷施設」を泊漁協では24.5%（67.2%）が「漁港」を、六ヶ所村海水漁協では23.6%（57.7%）が「加工施設」を、六ヶ所村漁協では36.3%（90.5%）が「漁港」を、三沢市漁協では30.4%（96.8%）が「漁船修理施設」をそれぞれ第1位に整備、充実が必要なものとしてあげた。

・（漁業協同組合事業）複数回答

漁業協同組合事業について期待、充実が必要なものは53.5%が「販売事業」をあげ、次に41.7%が「指導事業」をあげた。「指導事業」のなかで69.9%が「青年部の強化」をあげた。

・（余暇）複数回答

調査結果を第3表に示す。余暇の過ごし方は様々で、23.8%が「親しい人と話をする」をあげた。

第3表 余暇の過ごし方

	尻 労	猿ヶ森	小 野	田 沢	白 糖	泊	六ヶ所村海水	六ヶ所村	三 沢 市								
	686人	22人	47人	78人	122人	151人	110人	138人									
	1,335	35	47	48	271	249	178	380									
漁具、漁法の研究	133	4	4	0	30	39	14.4	24	9.6	9	5.1	23	6.1				
親しい人と話をする（雑談）	318	6	7	6	12.8	29	19.6	71	26.2	37	14.9	48	27.0	114	30.3		
親しい人と一杯飲む（飲酒）	205	5	1	2	25.5	29	19.6	34	12.6	40	16.1	19	10.7	65	17.1		
賭ごとをする（パチンコ、トランプ）	90	2	7.4	0	0	5	10.6	17	11.5	12	4.4	19	7.6	7	3.9	28	7.4
本、新聞、週刊誌を読む	94	1	3.7	5	14.3	3	6.4	6	4.1	24	8.9	24	9.6	16	9.0	15	3.9
山歩き（山菜、きのこを探る）	141	1	3.7	6	17.1	0	0	8	5.4	25	9.2	46	18.5	40	22.4	15	3.9
子供、孫と遊ぶ	76	0	0	2	5.7	5	10.6	6	4.1	15	5.5	14	5.6	16	9.0	18	4.7
カラオケの練習をする	21	0	0	1	2.9	0	0	1	0.7	3	1.1	3	1.2	2	1.1	11	2.9
テレビ、ラジオをみる	246	8	29.7	9	25.7	15	32.0	22	14.8	43	15.9	40	16.1	21	11.8	88	23.2
その他	11	0	0	0	0	1	2.1	0	0	5	1.8	2	0.8	0	0	3	0.8

- ・（生活環境について改善、充実が必要なもの）複数回答

生活環境について改善、充実が必要なものを多いものからみると、「道路の整備」が19.6%、「環境衛生施設」が16.6%、「医療施設」が14.8%である。

漁協別にみると、尻芳漁協の32.0%（回答者の88.9%）が「道路の整備」をあげている。以下同じく、猿ヶ森漁協では29.5%（78.3%）が「道路の整備」を小田野沢漁協では32.2%（95.8%）が「道路の整備」を、31.4%（93.8%）が「公園の整備」を、白糖漁協では20.3%（56.6%）が「道路の整備」を、泊漁協では24.2%（71.3%）が「医療施設」を六ヶ所村海水漁協では17.9%（44.5%）が「環境衛生施設」を、六ヶ所村漁協では31.6%（86.2%）が「道路の整備」を、三沢市漁協では28.1%（79.4%）が「消防施設」と「信号機」をそれぞれ第1位にあげた。